

大東文化大学 東洋研究所所報

2025.1 No.82

目次

縁 東洋研究所専任研究員・准教授 高橋 あやの…… 1	2024年度 東洋研究所刊行物…………… 4
2024年度 夏休み&秋の公開講座…………… 2~3	計 報…………… 4
2025年度 夏休み公開講座…………… 4	

縁

大東文化大学東洋研究所専任研究員・准教授 高橋 あやの

私が東洋研究所の兼任研究員となったのは2019年のことである。夫の転勤に伴い関西から転居したばかりで関東に研究の拠り所がなかった私に、『天文要録』の研究班（第4班）を紹介してもらったのがきっかけである。毎月の活動に参加し、訳注の検討に関わるようになった。

私の専門分野は、中国天文学史・天文思想、あるいは術数学などと称しているが、そもそもは中国科学史に関心を持ったところからスタートしている。大学生の時は中国史を学びたいと考えており、たまたま受けた科学論の講義の中で、「なぜ中国で近代科学が興らなかったのか」というニードム問題を知り、中国の科学技術に興味を湧いた。卒業論文は、やはり数理科学の講義で無限の観念について学んでいたことから、中国古代の無限観をテーマとした。これらの授業はいわゆる教養科目で、所属学科の専門とは全く関係ない。しかし、幅広く自分の関心に応じて授業を選択したことがのちのちの自身の研究テーマに繋がっており、大学での授業選択一つをとっても、一期一会であったと感じる。自身が授業を担当するようになった今は、何か少しでも学生たちの琴線に触れるものがあれば、という思いでいる。

その後、修士論文ではニードム問題をテーマとした。テーマとしては大き過ぎ、博士課程進学の前頭試問では「こういうテーマは定年間近の大先生が扱うものだよ」というようなご意見をいただき、尤もだと反省した。こうした評価にもかかわらず、どうにか博士課程への入学許可を得、次の研究テーマを考えた時に出てきたのが天文学である。所属の大学院で個別に指導してくださる先生

の分野だったこと、進学後に参加した東アジア科学史・術数学の研究会で天文学史の先生と出会ったことなどから、はじめに宇宙論、そして星座、天文書へと関心は広がっていった。

博士課程から今日までは、特に人との縁が私にとって大事なものであった。研究会で知り合った先生方との交流は今でも続いているし、世代の近い研究者同士で新たな研究会を立ち上げ、オンラインで情報交換をしたりもしている。そうして得た情報が新たな興味関心を呼び、研究が広がると共に東洋研究所の研究班との縁にも繋がっていった。

そして、2023年度より専任研究員として着任することとなった。東洋研究所には天文・暦学研究の伝統が脈々と続いている。これまでに宣明暦、若杉家文書の天文・五行占に関する資料の訳注などが成果としてある。前任の小林春樹氏は、研究班を「天文・暦学史の研究者による自由な知の共同体」とすること、そして当該分野の研究を「開放系の学問領域」とすることを志向する、と述べられた¹。私自身の目指す方向性とも軌を一にするものである。伝統の灯を絶やさないように、というと荷が重い、国内に関連分野の拠点は多くないため、微力ながら周囲の縁を繋いで斯界に何らかの貢献ができればと願っている。

(たかはし あやの 大東文化大学東洋研究所専任研究員・准教授)

¹ 小林春樹編『東アジアの天文・暦学に関する多角的研究』（大東文化大学東洋研究所、2001年）はじめに。

2024年度 夏休み公開講座 「東洋を知ろう！—テキストを補うもの—」

2024年度 東洋研究所 夏休み公開講座は、「東洋を知ろう！—テキストを補うもの—」を統一テーマに下記の通り開催された。各講座の概要は以下のとおりである。

◇第1回 2024年7月20日(土) 10:30～12:00 大東文化会館3階 K-0302 研修室

テーマ：「孔子が語ったことにされた「性」の話」

講師：田中 良明（東洋研究所 専任研究員・准教授）

はじめに、孔子の言葉は、その死後に『語』や『記』に整理されていき、その中には、孔子を批判するために作られた孔子の言葉が有れば、反対に孔子の説（儒家思想）を批判する者たちを批判するために作られた言葉も有ったことを説明し、遅くとも漢初にはその原形が成立していた『論語』に見られる性説を確認した後、戦国時代から漢代に及ぶ性説の展開の中で、後漢時代に様々な性説が整理され、『論語』の「上知」「下愚」「中人」と結びつけた性三品説（九品説）が唱えられるようになり、性三品説や九品官人法などの社会制度下に『論語』の解釈が重ねられていく過程と、朱子学による性三品説からの解放を解説した。



◇第2回 2024年7月27日(土) 10:30～12:00 大東文化会館3階 K-0302 研修室

テーマ：「占いの書から哲学の書へ『易』の経典化とその後」

講師：高橋 あやの（東洋研究所 専任研究員・准教授）



『易』はもともと占いの書でしたが、儒教の経典となり、陰陽の理論と結びついて哲学の書とみなされるようになりました。本講座では、まず『易』の卦やテキスト（経と伝）、『易』と陰陽の関係について解説しました。次に『易』の成立や変遷について、『易』が経典化した時期について、テキストの注釈・解釈について、通説とともに出土文献の記述を取り上げ説明しました。そして、『易』の理論が儒教の枠を超えて用いられた事例として、後漢末の魏伯陽の著とされる『周易参同契』を紹介しました。『周易参同契』は現存最古の錬金術書で、漢代に盛んであった象数易の理論を活用し、金丹を錬る際の火加減、温度調節（火候）を『易』の卦で説明しています。

◇第3回 2024年8月3日(土) 10:30～12:00 大東文化会館3階 K-0302 研修室

テーマ：「預言者ムハンマドの言行録」

講師：栗山 保之（東洋研究所 所長 専任研究員・教授）

本講座では、イスラームの預言者ムハンマド（632年歿）の言行録について紹介しました。ここで言うムハンマドの言行録とは、ムハンマドが言ったり、おこなったりしたことを、その場で聞きしていたムハンマドの教友たちから次の世代へと語り伝えられてゆく伝達の経路とともに、まとめた書物をいいます。ムハンマドの言行内容は誤りがあるわけではありませんし、誤って伝えられてもならないため、その言行を次世代へと語り継いでゆく人もまた、行い正しいムスリムでなければなりません。そのため、伝えられたムハンマドの言行の正確さを裏付けるために、言行を伝えた人びとの学問や性格、彼らのつながりの時間的・空間的な正しさなどが究明されました。こうして出来上がったムハンマドの言行録は、ムスリムたちにとって、コーランに次ぐ法的な源として位置づけられてゆくことになりました。



2024年度 秋の公開講座 「アジアの民族と文化」

2024年度 東洋研究所 秋の公開講座は、伝統の「アジアの民族と文化」を統一テーマに下記の通り開催された。各講座の概要は以下のとおりである。

◇第1回 2024年11月14日（木）13：00～15：00 大東文化会館3階 K-0302 研修室

テーマ：「台湾統一をめぐる中国・習近平の政治論：台湾政策、政治構想、歴史認識」

講師：鈴木 隆（東洋研究所 専任研究員・教授）

本報告では、筆者の同名の既発表論文（『東亜』霞山会、2023年11月号掲載）の内容を紹介した。報告では、



3つの視点（①習近平政権の推進する台湾政策の特徴と論理、②指導部の持する全体的な政治構想や関連する他の政策との関係、③1985年から2002年までの約17年間を過ごした福建省勤務時代の台湾とのつながり）から、習近平の台湾認識を深く掘り下げて検討した。

筆者の分析によれば、習近平の台湾認識は、19世紀の日清戦争や廢琉置県処分（琉球処分、琉球併合）を含む、東アジア近代史の歴史認識と領土観念に密接に関係しており、この意味においてまさしく、台湾問題とは「日本」の問題でもある。同時に、習近平にとって台湾問題とは、習近平個人の過去と現在、中国の近代と現代の二重の意味において、歴史と現在の間を往還する存在といえる。

◇第2回 2024年11月21日（木）13：00～15：00 大東文化会館3階 K-0302 研修室

テーマ：「NHK大河ドラマ『光る君へ』とその時代」

講師：オレグ・プリミアエニ（東洋研究所 兼任研究員・大東文化大学外国語学部日本語学科・同学大学院外国語学 研究科日本語文化学専攻非常勤講師）

2024年度NHK大河ドラマ『光る君へ』は平安京で花開いた王朝文化の最盛期を舞台に、藤原道長と紫式部の生涯を描いています。

あらゆる芸に秀でてでも周囲への配慮に欠ける大胆な発言をする藤原公任、筆致流麗で帝をはじめ多くの殿上人を魅了する温和な藤原行成は道長を支える重要人物です。この二人の人物像はどのような伝承に基づいているのでしょうか。

平安末期の歴史物語『大鏡』によれば、若き公任は姉・遵子の立后に際して藤原詮子を侮辱する発言をして、右大臣藤原兼家とその一族の恨みを一時的に買ったことがあります。また、行成は楷書体・草書体の書き入れを施した質素な扇を献上して他の殿上人より帝の御感に与ったことがあります。



本講座では『大鏡』のほかに、鎌倉初期の説話集『古事談』と『十訓抄』よりいくつかの逸話を紹介して、公任と行成の人物像を深掘りしてみました。

◇第3回 2024年11月28日（木）13：00～15：00 大東文化会館3階 K-0302 研修室

テーマ：「枕草子「香炉峯の雪」章段とその受容」

講師：浜口 俊裕（東洋研究所 兼任研究員）

枕草子を鎌倉期に受容した十訓抄は、史実を逸脱し清少納言を一条帝女房に変改した教訓譚で編む。江戸期は、



絵入整版本女郎花物語・本朝女鑑・絵本故事談・女文宝知恵鑑・婦宝文庫・女教万宝全書東鑑などが受容し、十訓抄に与する内容だが、婦女童幼の訓育に寄与した。江戸期以降、やまと絵や錦絵にも受容され、架蔵の撥簾図各種を例に紹介した。明治から昭和期は、歴史画、双六絵、絵葉書、かるたにも受容された。明治期の教科書5学年『高等国語読本女子用』『尋常小学読本』に故事と挿絵、昭和10年には新曲「清少納言」が『新訂高等小学唱歌第2学年女子用』教材になった。

受講者は、唱歌「清少納言」を生音で聴いたり、架蔵の絵入整版本を手に取り実見したことで、学びを深めたことであろう。

2025 年度 夏休み公開講座

東洋研究所では、2025 年度の夏休み公開講座「中国古典小説の世界（仮題）」を予定しております。今回は会場に変更がありますが、特段の事情が無い限り、従来通りの定員 30 名で開催する予定です。状況に応じ大学ホームページ等でお知らせします。受講料は無料です。都合により、講師の順番が入れ替わることもあります。

日 程（予定）	講 師	テーマ（仮題）
2025 年 7 月 19・26 日及び 8 月 2 日の各土曜日 10 時 30 分～12 時 00 分	大東文化大学 東洋研究所 兼担研究員 文学部中国文学科教授 小塚 由博	「中国古典小説の世界への招待」
	大東文化大学 東洋研究所 兼任研究員 文学部中国文学科非常勤講師 荒井 礼	「中国古典小説の展開」
	大東文化大学 東洋研究所 兼任研究員 共立女子大学文芸学部准教授 今井 秀和	「怪談「牡丹燈籠」の来歴 —中国古典の翻案と江戸の文芸—」

■会 場：大東文化会館が改修工事のため、大東文化大学板橋校舎で開講予定です。詳細な内容（日程、会場、定員）が決定しましたら、追って大学ホームページ等に掲載いたします。

※本講座は、高校生・大学生以上の年齢層を対象に、アジアを中心とした諸地域を研究対象とする当研究所の研究者が、テーマに沿って平易かつ具体的な解説を行います。

2024 年度 東洋研究所刊行物

- ・『東洋研究』 第 232 号 (2024 年 7 月 25 日発行) 第 233 号 (2024 年 11 月 25 日発行)
- 第 234 号 (2024 年 12 月 25 日発行) 第 235 号 (2025 年 1 月 25 日発行予定)
- ・『藝文類聚（巻五十三）訓讀付索引』 (東洋研究所研究班 2025 年 2 月発行予定)
- ・『茶譜』巻十四 注釈 (東洋研究所研究班 2025 年 2 月発行予定)
- ・『虞初新志』訳注② 巻四～巻六 (東洋研究所研究班 2025 年 2 月発行予定)

※ この他の東洋研究所刊行物についてはホームページをご覧ください。

◆訃報◆ — 謹んでお悔やみ申し上げます —

遠藤 光正 殿 (元東洋研究所所長・東洋研究所教授) (2024 年 11 月 27 日)

小島 麗逸 殿 (東洋研究所兼任研究員) (2024 年 12 月 7 日)

刊行図書取扱店

■(有)池上書店 (2025 年 3 月末日で閉店)
〒175-8571 板橋区高島平 1-9-1 大東文化大学 2 号館 B1
TEL: 03-3932-7567 FAX: 03-3932-7544
E-mail: ikegami.bookstore@gmail.com

■汲古書院 (現在取扱休止中。2025 年 3 月 1 日より再開)
〒101-0065 千代田区西神田 2-4-3 高岡ビル 4F
TEL: 03-3265-9764 FAX: 03-3222-1845
E-mail: kyuko@fancy.ocn.ne.jp

■大東文化大学内購買部 (株)進明堂書店
〒355-8501 埼玉県東松山市岩殿 560
TEL: 0493-34-4430 FAX: 0493-34-5622
E-mail: info-daigakuten@shinmeido.co.jp

■東方書店業務センター
〒175-0082 板橋区高島平 1-10-2
TEL: 03-3937-0300 FAX: 03-3937-0955
E-mail: tokyo@toho-shoten.co.jp

大東文化大学 東洋研究所 所報 No.82

2025 年 1 月 25 日発行

印刷: (株) 東京技術協会

編集・発行 大東文化大学東洋研究所

〒175-0083 東京都板橋区徳丸 2-19-10

TEL (03) 5399-7351 FAX (03) 5399-8756

E-mail: tokenji@ic.daito.ac.jp

URL <http://www.daito.ac.jp>